

令和8年度

半田中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる授業の実践
- 思考力・判断力・表現力を育み、深い学びを実現させる授業の実践

校長

手塚 博也

学力向上推進員

森浦 直美

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○与えられた課題に取り組むことができる生徒が多い。</p> <p>●「家庭学習の時間が平均1時間未満である」と答える生徒が半数近くおり、基礎基本が定着していない生徒がいる。</p>	<p>・「家庭学習の時間が平均1時間以上である」生徒を、90%以上にする。</p> <p>・学習における基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。</p>	<p>・単元終了後に小テストの実施、ワーク類の提出と確認を行い、スモールステップで復習させ、知識・技能を確実に習得させる。</p> <p>・デジタル教科書などICTを効果的に活用し、すべての生徒が学びやすい授業を実施する。</p> <p>・家庭学習の取り組み方について「学習の手引き」を配布する。</p> <p>・学習のめあての明確化とまとめや振り返りをしっかりと行う。(授業のユニバーサルデザインの推進)</p>			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○自分の考えをノートなどに記録し、友達と意見交換ができる。</p> <p>●自分の考えなどの根拠を添えながら表現することが十分ではない。</p>	<p>・根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを他者に伝えることができる。</p> <p>・話し合い活動を通して、気づいたり、考えたりしたことを表現することができる。</p>	<p>・ICT機器やホワイトボードの活用、ペアやグループでの話す聞くなどの言語活動を行い、表現力を身につけられるようにする。</p> <p>・学習形態を工夫しながら話し合いや学び合いの場を設け、発表する機会を増やし自信を持たせる。</p>			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○授業中は落ち着いて学習に取り組み、内容を理解しようとしている。</p> <p>●課題解決に向けて、粘り強く学習に取り組むことができない生徒がいる。</p>	<p>・目的意識をもって学習に取り組み、主体的に課題を解決しようとするができる。</p>	<p>・生徒の学習活動に対して全教職員がポジティブな行動支援を行い、学習意欲を高めていく。</p> <p>・各教科や学級活動など機会を捉えて「学習の手引き」を示し、主体的な学習方法を身につけられるようにする。</p> <p>・それぞれの教科で授業の目標の明示と振り返りを行う。</p>			